

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19 年 7 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	22767001720		
法人名	有限会社旬彩亭		
事業所名	グループホーム旬彩		
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市今之浦1丁目1番地13 (電 話) 0538-33-5105		
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司		
所在地	静岡県静岡市迎山町 4-1		
訪問調査日	平成19年 4月 26日	評価確定日	平成 19 年 7 月 5 日

【情報提供票より】(平成19年 4 月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 5 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独		新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	理美容院代・おむつ代等 実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(217,500 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1, 600 円		

(4) 利用者の概要(4 月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 60 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人所有の、賃貸マンションの1階部分を使用した1ユニットのホームである。利用者の各居室はマンション1階フロアの「ワンルームマンション」であり、利用者にとっては玄関に入れば完璧な「自宅」としての位置付けになっている。居室の他に、共有空間として同タイプの部屋の談話室・食堂兼事務室が一室ずつ整備され、施設的な雰囲気のまったく感じられない生活空間の中で、「ご近所同士」の助け合いの様な暮らしがある。利用者同士が世話を焼き合い、その人その人が自然体で暮らす様子で、その生活を支えるホームの支援・配慮をうかがい知る事ができる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、セキュリティロックのマンション玄関とホーム入り口が同一である為、入りやすさへの一考のお願い、利用者の栄養摂取状況把握の為の栄養価計算の必要性の提案の2点であった。今回評価では、その2点も含め、サービスの質の見直し、改善が進められ、ホーム全体の積極的な取り組みが確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価の意義・外部評価の意味を理解し、職員に周知している。自己評価は管理者・職員全員で行い、コメントを記入しながら内容理解に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1度開催され、自治会役員・民生委員・市福祉課職員・利用者・家族・職員等、毎回10人以上の参加があり、活発な意見・情報交換の場となっている。ホームの事業報告、認知症理解等、ホームからの情報提供はもちろんの事、ホームの困りごと相談の場とも成り得ており、専門分野の方からの助言・協力をいただき、ホームの運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームからは毎月発行の「旬彩だより」を活用し、利用者の暮らしの様子を定期的に情報提供する他、家族の訪問時・電話連絡時には積極的に声かけに努め、家族の不安に配慮をしている。また、同時に意見・要望の聴き取りにも努め、内容は職員間で話し合い、適切な対応を実践している。ホームと利用者家族の関係は良好であり、ホーム職員の対応に感謝の言葉が寄せられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、自治会の会合や老人会、地域の行事(納涼祭や防火訓練など)に参加する等、ホームから積極的に働きかけ、利用者のほろあ・楽しみに繋げている。また、日常の散歩・外出時の近隣住民への声かけ・挨拶・立ち話など、馴染みの関係作りを実践し、交流に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく自然体で生活することを支えるケアを目指し、「入居者皆様一人ひとりの有する能力に応じた個別介護計画に沿った運営を目指す」ことを理念としている。しかし、現時点では地域密着型サービスとしての理念策定までには至っていない。	○	認知症対応型サービスの理念・方針に留まらず、地域密着型サービス施設の役割を考え、利用者の地域生活の継続支援・地域との関係強化を目指した、事業所としての理念策定が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念・方針に関して、管理者の介護精神はホームの介護方針に繋がり、職員もこれをよく理解し、日々の介護に活かしている。	○	現体制を活かし、地域密着型サービスとしての理念・方針策定後も、同様の取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、自治会の会合や老人会、地域の行事(納涼祭や防火訓練など)に参加している。ホームの行事には地域住民やボランティアの協力があり、介護の技術や経験を地域に役立てる取り組みとして「介護教室」の開催を計画し、地域との結びつきを深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいを考え、自己評価に全職員で取り組み、職員一人ひとりが記入している。外部評価の結果を職員に伝え、一丸となって改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員・民生委員・市福祉課職員・利用者・家族・職員が会議に参加している。ホームの取り組みや実情を報告する他、ホームが部外者に対し、相談や助言を受ける場となり、活発に意見交換が行われている。	○	外部評価結果を議題とする予定があり、ホームのサービスの質の向上に対し、ますます盛んな意見交換が期待される。会議の場で、改善に向けたホームの困りごと、あるいは、地域に協力をお願いしたい事等、具体的な協議が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、認知症サポーター「キャラバンメイト」として「認知症介護教室」の講師をしている。この活動を通して市町村との連携を図っている。	○	認知症介護のプロとして、今後も様々な活躍を期待するところである。管理者個人のみならず、ホームとしての取り組みにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「旬彩便り」で、行事や日々の暮らしぶり、エピソードを、「健康チェック表」で毎日の生活や健康、ケアの様子や経過を報告し、「明細票」で金銭管理の報告をしている。特に健康、生活面において細やかな報告がされ、家族にもよく理解されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け、家族が素直な意見や不満を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。家族からはこやかな職員の対応に感謝の言葉が寄せられている。また出された意見や要望は職員と話し合い、運営や介護計画に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代による利用者のダメージに配慮し、時間と機会をみて利用者に告げるようにしている。ホームの職員交代回数は少なく、運営面での努力がうかがえる。結果として利用者のおだやかな日常生活の確保がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員共に学びの必要性を十分認識し、意欲的に研修や講習会に参加している。研修内容を報告し内容を全職員が知ることが出来る仕組みができています。月に1度「勉強会」も行われ質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会議に参加し連携を図っている。市内事業所の管理者同士の関係は良好であり、他事業所の職員実習や見学を受け入れ、交流をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に本人や家族の思いや心身の状況、病歴等を把握し、納得のいくまで話し合いをしている。利用者が安心して利用開始できるよう、家族から生活習慣や行動習性を聞き取り、利用者自宅から馴染みの家具や日用品を持ち込むなど、ホームの雰囲気に馴染むための働きかけをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮していただき、「人生の先輩」である利用者から教えてもらう場面が多い。していただいたことには感謝を表し、共に助け合う関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や関わりの中、職員との会話により利用者の意思や思いを聞き出している。やりたい事など利用者の意思が尊重されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日常の様子、本人・家族の意見・希望の聞き取りを実践し、毎日の申し送りや月に1度の全職員による全体ミーティング時には、職員の気づきも合わせた情報交換を行い、利用者本位の介護計画を検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の関わり合いの中で問題点や状態変化を把握し、実情に応じたケアにつながるよう介護計画を見直しをしている。また、面会・電話連絡で家族に説明し、意見・希望を聞き取り、介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対しては、自宅介護では難しい緊急時対応等、状況に合わせた柔軟な支援が適切に行われている。また、ホームの多機能性を活かした地域への取り組みとして、同マンション上階の高齢者世帯・独居世帯等への配食サービスを行い、喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、協力病院の他にホーム利用前のかかりつけ医の受診もできる。毎週定期的な協力医の訪問診察を受け、異常が認められた場合は必要な治療を受けられる体制づくりがなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針で、入居時に重度化に伴う意思の確認を取り、話し合いの上同意書を作成している。職員もターミナルケアについて勉強会・研修に参加し、よりよい支援ができるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事務所の一部が利用者の居間と兼用になっている為、利用者が近くにいる時には引継ぎの名前の呼び方は本人と判らないようにしたり、記録を利用者の目につかないところに保管するなど、プライバシー保護に努め、柔軟に配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその人らしい暮らし、その人らしいペースでの生活支援を実践している。食事や入浴時間、喫煙など利用者の意向や希望を大事にして、利用者が自然体でいられるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに利用者の好みを取り入れ、ホームの畑で採れた野菜、旬の食材を用いて職員と共に調理している。配膳・お茶くみ・片付けなど、職員見守りの中、利用者一人ひとりの力を活かした手伝いをしている。食事介助の必要な人には、職員が会話をしながらさりげなくサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めず、利用者の希望に合わせて毎日の入浴を可能にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意なこと、できることを把握し、一人ひとりに合った役割、楽しみごとを支援している。食事の支度・後片付けなど生き生きと意欲的に働く利用者の姿が見られる。野菜・花作り、カラオケ等の趣味・張り合いの支援を実践し、利用者の活動意欲を高める働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の環境に恵まれ、隣接の公園・遊歩道での散歩など、利用者の希望や健康状態、天候に留意しながら、毎日の外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより利用者は自由に外出できる。利用者が買い物や花の水遣りなどで一人で外出する時は、少し離れて付いていくなど、利用者の尊厳と安全面に配慮しながら、自由な生活が出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの「安全意識」は高く、年2回の避難訓練を行い、夜間想定訓練・職員連絡網を実際に使った訓練など、実践的な訓練を試みている。同じマンション内の住民にも声を掛け、数名の参加・協力があり、意見交換が行われている。	○	消防署の協力を得ての避難訓練・避難経路の確認など、プロの意見を参考にしながら、確実に避難誘導が出来る取り組みが望まれる。また、「老人入居施設」の存在を消防署・地域に知っていただき、災害時の協力依頼の働きかけもお願いしたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎回チェック表に記入・把握している。利用者の状態に合わせ、きざみ食・量や塩分等を制限する等のそれぞれに合った対応がされている。調査当日の昼食も、見た目においしそうな工夫をし、軟らかめに煮た季節の野菜が食べやすく調理されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が高齢者住宅規格になっている為、バリアフリー仕様で、利用者が安心して自立した生活を送れるよう配慮された造りになっている。談話室ではくつろいだ様子でお茶を飲んだり会話をしている利用者の姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれがマンション1室を居室として利用しており、十分な広さが確保されている。自宅から使用していた家具・日用品等馴染みの物を持ち込み、まさに「自分の家」として利用している。また、独立住居の強みで、プライバシー確保は万全であり、家族の宿泊も自由に行える。		